

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：32710

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00334

研究課題名(和文) 中世・近世前期における九条家の蔵書の生成とその変遷

研究課題名(英文) Creation of the Kujo family's book collection and its changes in the medieval and early modern periods

研究代表者

石澤 一志 (Ishizawa, Kazushi)

鶴見大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：30507752

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：九条家旧蔵本の博捜調査を行った。九条家旧蔵本は、各所蔵機関にある程度まとまって分蔵されている。それらの実態調査を行うとともに、目録売立その他により売却されたものは、散佚・散在しており、それらを出来る限り発見し、情報を収集した。今回、新たに九条家旧蔵であることが判明した典籍があり、それらのいくつかを鶴見大学図書館に収蔵した。今後は、散在する九条家旧蔵本の情報収集を継続するとともに、個々の伝本の書承および収蔵の伝来関係を調査することで、九条家蔵書の形成と分散流伝の様相を明らかにする作業を継続する必要があることを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

五撰家の一つで、日本の中世近世の歴史文化に於いて必要な役割を果たした九条家の蔵書の実態の様相を明らかにした。九条家の蔵書は、他の蔵書および各作品の書承に関して重要な地位を占めており、それらの伝来の一端を明らかにした。中世成立の作品が近世を通じて書写継承され、それらが近代以降、巷間に流出し、中世近世日本の歴史文化の内実を考究するための重要な資料と手がかりを示した。

研究成果の概要(英文)：We conducted an archival survey of the books formerly owned by the Kujo family. The books formerly owned by the Kujo family are stored in relatively large quantities at each institution. We conducted a survey of their actual condition, and as many of the books that were sold through catalog sales or other means that have been lost or scattered were discovered and information was collected. This time, new classics were discovered to have been formerly owned by the Kujo family, and some of these have been added to the Tsurumi University Library. We confirmed that it will be necessary to continue collecting information on the scattered books formerly owned by the Kujo family, as well as to continue work to clarify the formation of the Kujo family's book collection and the state of its dispersed transmission by investigating the transmission of each surviving book and the relationship of its collection.

研究分野：日本文学

キーワード：中世文学 近世文学 書誌学 文献学 九条家 文庫研究 伝本研究 諸本研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

科学研究費「近世前期における九条家蔵書の復元とその文献学的研究」(基盤研究C(一般)2011~2015)および「中近世期における九条家蔵書の形成と流伝に関する研究」(基盤研究C(一般)2014~2017)の科研費による研究成果を踏まえ、調査研究の継続を目指した。

五撰家の一つである九条家の蔵書は、鎌倉時代初期の同家成立以降の歴代当主により蓄積・継承されてきたが、大正末年から昭和初期、また終戦直後の昭和20年代の三度の売り立てにより巷間に流出し、貴重な蔵書群の多くは諸家に分蔵されることになった。中でも文学書を中心とした大規模な売立として知られる、昭和4年(1929)時の様子は、札主であった一誠堂書店の店員として売り立てに関わった、反町茂雄の『一古書肆の思い出』(平凡社)によりその詳細が知られている。とりわけ話題となったのは『我が身にたどる姫君』『恋路ゆかしき大将』の2書であり、幻の逸書の出現に多くの注目が集まった。これらは国文学者・金子元臣が入手して研究に供され、現在は国文学研究資料館に寄託されている。この他にも多数の作品が売立に付され、九条家本として学会に報告され、その後の研究に多大な新見をもたらしている。加えて近年、新たな事実として、西下経一旧蔵初雁文庫本(国文学研究資料館蔵)の『とりかへばや』と前出『我が身にたどる姫君』『恋路ゆかしき大将』とが同一筆跡であることが明らかとなった。石澤はさらに、鶴見大学が所蔵する『浜松中納言物語』(祖形本・巻2)および天理大学所蔵の『源承和歌口伝』(愚管抄)が前出の3書と同一筆跡であることを発見、また早稲田大学蔵『歌合集』(2冊)もまた同一筆者による書写本であることを発見した。さらに、実践女子大学所蔵の『歌合集』(全14冊)がこれらと同一筆跡であるだけでなく、早稲田大学蔵『歌合集』は、実践女子大学蔵『歌合集』の旧蔵者、山岸徳平から小川寿一に分与されたものであること、そして昭和4年以前にこれらの筆跡を持つ書写本が九条家から流出していたことなどを『歌合集』の奥書から明らかにした。これらは皆、非常に特徴的な筆跡を持つだけでなく、装訂が共通し、『とりかへばや』『我が身にたどる姫君』『恋路ゆかしき大将』『源承和歌口伝』『歌合集』は「九条家本売立入札目録」(『反町茂雄収集古書販売目録精選集』ゆまに書房)の中に書名が見出されることから、すべて九条家旧蔵本であることを突きとめた。

以上をまとめ、主として鶴見大学蔵『浜松中納言物語』の筆者について考察したのが、池田利夫の「祖形本『浜松中納言物語』の写し手は誰—『とりかへばや』と『恋路ゆかしき大将』と」(『鶴見大学紀要』38、2001)であった。これを承けて、石澤は「九条家旧蔵本『歌合集』について—池田利夫「祖形本『浜松中納言物語』の写し手は誰—」続貂」(『国文鶴見』36、2002)において、実践女子大学蔵山岸文庫本『歌合集』が九条家旧蔵本であることを明らかにし、そこから分割・分与されたのが早稲田大学蔵『歌合集』であることを指摘した。そこでこの筆者については未詳ながら九条家に連なる「右筆」であろうとの推定を行った。その後、海野圭介「随心院門跡と歌書」(『日本古典文学史の課題と方法』和泉書院)により、小野随心院に所蔵される歌書のうちに、装訂は異なるものの、上記の作品群と同一筆跡の典籍3点報告され、近世初期の随心院門跡が九条家の出身であるという関係から、これらは九条家から随心院へと贈られたものであろう、との指摘がなされた。その後、石澤(本研究応募者)は天理図書館の九条家本の中に前出作品群と同じ筆跡を持つ典籍がまとまって所蔵されていることを確認し、宮内庁書陵部に所蔵される九条家本の中にも、既述の作品群と同一の筆跡を持つ典籍が存在することを発見した。そこで、「近世前期における九条家蔵書の復元とその文献学的研究」(基盤研究C(一般)2011~2015)を受けて調査を行い、それが近世前期の九条家当主であった九条道房(慶長14 1609~正保4年1647 39歳)の書写活動によるものであることを突きとめた。そしてさらに「中近世期における九条家蔵書の形成と流伝に関する研究」(基盤研究C(一般)2014~2017)を受けて、天理図書館および宮内庁書陵部に蔵される九条家旧蔵本の悉皆調査をほぼ完了した。また、その他に全国各所に所蔵される九条家本の調査を行い、学習院大学に『再昌草』(三条西実隆家集)、島根大学に『千五百番歌合』、東海大学桃園文庫に『弘安源氏論議』、広島大学に『古今著聞集』、慶應義塾大学に久曾神昇旧蔵の九条家旧蔵本が所蔵されていることなどを発見・確認し、それらの調査を行ってきた。

## 2. 研究の目的

五撰家の一つである、九条家が近世前期に行った書写活動を中心とした蔵書形成の様相を解明し、中世後期から近世期および近代・昭和20年前後にかけての九条家の蔵書の実態とその変遷を明らかにすることを目的とする。具体的には、江戸時代の初の寛永年間九条家の当主であった、九条道房が行った蔵書の整理と書写・形成の様相を現存する典籍から明らかにする。それらの蔵書の書承関係を遡ることと、九条家蔵書から書写され、転成していった書物群の行方を明らかにする。大正末年以降、これら九条家の蔵書は九条家から離れて巷間に流出し、古書肆および古美術商などの手を経て諸家に分蔵されている。それらを出来る限り追跡し、現時点に於ける九条家旧蔵書の所在を明らかにすることを目的とする。

『我が身にたどる姫君』『恋路ゆかしき大将』『とりかへばや』『浜松中納言物語』『源承和歌口伝』『歌合集』(実践女子大学・早稲田大学)などの作品群に見られる、固有の筆跡を持つ写本群が

示す、近世前期に九条道房の下で行われた書写活動の実態を明らかにするためには、その総合的・総合的な把握が必要である。宮内庁書陵部に蔵される九条家本について、現時点での整理分の中における九条道房の関係した書写活動に関わる典籍についてはこれまでに受けた科研費、「近世前期における九条家蔵書の復元とその文献学的研究」および「中近世期における九条家蔵書の形成と流伝に関する研究」(基盤研究C(一般))により、一通り調査を完了している。また、天理大学所蔵の九条家本についても、現時点で把握できる限りの典籍について、調査を終えている。これらの成果を基に、さらに全国各所に存在する九条家旧蔵本について、各地に散在する九条家旧蔵本に関して、現在各所蔵機関により発行されている目録などからリストアップし、各所から情報が寄せられたものを含めて情報を整理し目録を作成、順次現地に出向いて書誌的調査を行う。特に九条道房の書写活動の全体像を明らかにするべく、網羅的な調査を行う。同時に個々の作品の伝本を調査し、九条家本との書承関係を明らかにする必要がある。これらを総合した、近世前期における九条家本の総体を浮かび上げさせその概要を把握する。中でも核となる、九条道房の書写活動の全貌を明らかにして、その全体像を復元しつつ、それを支えた、特徴ある筆跡の右筆の活動範囲とその正体を追求・解明すること、併せてその底本・原本の実相に迫り、九条家本と、他の所蔵先である、禁裏文庫・摂関家・公家・寺院・武家などの蔵書との関連性を確認する。現時点では近衛家陽明文庫本と禁裏文庫、さらに肥後細川家永青文庫・北岡文庫本、との書承関係が想定・一部解明されてきており、一方、冷泉家・三条西家・中院家などの蔵書群との関係も予想され、これらを明らかにする必要がある。その中で、九条家本と中世期写本群との接点を探ることが最終的な目標となる。現在知られる九条家旧蔵本は、その作品の多くが、これ以上書写年代を遡ることが出来ない最古写本であり、同時に本文的には最善本である。それらの来歴を明らかにする為には、九条家本の中の文学関係書・歴史関係書・仏教関係書などが、それぞれどの程度現存するのかを明らかにし、そのうえで、それらが元来どのような規模のまとまりを持った蔵書であったのかを可能な限り復元する必要がある。そしてどのような写本を基にいかなる意図と目的の下で、書写活動が行われたのか、それが当時の他家の蔵書群とどのようなつながりを持つのか。同時に、どのような違いがあり、九条家本にはどのような特徴があるのかも明確にしたい。それが明らかになることにより九条家の本がどこから伝来したのかが見えてくることが予想され、それは九条家の持つ、典籍を媒介とした近世初期から前期にかけての人的ネットワークを浮かび上げさせる事にも繋がってくるものと思われ、これらを出来る限り明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

書誌学・文献学の知見に基づき、諸所に分散所蔵される古典籍を調査する。既に報告され知られている所蔵先に於ける、蔵書目録データベースを活用調査し、その概要を把握する。その上で、所蔵の実地に赴いて書誌学的・文献学的な調査を行い、古典籍個別の調査を行う。またその結果を集積する。

### 4. 研究成果

『邦高親文集』『古来風体抄』『順徳院・後鳥羽院 中殿御会和歌』の3点の、新たな九条家旧蔵本を見出した。これらは従来知られていた九条家旧蔵本とは異なる装訂である点が注目され、九条家が所蔵していたことは各所の証言によってのみ知られるところであるが、今後とも僚巻の博搜と個々の伝本についての考究が必要であることを確認した。

物語研究に於ける、九条家および西園寺家の文化圏の考究を視野に入れつつ、『雨やどり』の諸本研究を中心とした中世王朝物語の研究を行った。国会図書館本および天理大学図書館本・静嘉堂文庫本の調査とその本文の比較を行った。その結果は研究会で発表・報告した。また市古貞次(国文学研究資料館初代館長・中世王朝物語研究)が所蔵していた 伝本を見出し、その書誌的事項と本文内容についての調査を行って、その結果を報告した。さらに女子美術大学本・滝川君山旧蔵本を新たに見出し、その調査・報告を行った。そしてこれらの本文の集成と校本の作成を計画し、底本となるべき、南北朝時代頃に書写されたと思われる、伊達文化保存会本の再調査を行った。また中世王朝物語の生成圏として、鎌倉時代の九条家および西園寺家の存在が挙げられているが、今後の研究調査の対象として、散文・物語研究の分野を視野に入れてゆく必要があることを確認した。

九条家歴代当主の筆蹟を含む、短冊の模写本を見出し購入、調査を行った。これは江戸時代後期の短冊蒐集で名高い浦井有国の旧蔵短冊手鑑『振古仙雅』『古今吹万』の透写による模写本であり、古筆鑑定家の古筆了伴が当該短冊手鑑を鑑定し、極め札(鑑定書)を発行した際の手控えとして作成したものであることが判明した。また、それが『振古仙雅』『古今吹万』を中心に作成された、短冊模刻帖『眺望集』の刊行に近接する時期に行われていたことが、模写本の奥書から判明した。よって、この模写本の作成および鑑定が、短冊模刻帖『眺望集』の作成・刊行と密接な関連を持つことが明らかとなってきた。また、法華経の要文(経文の重要な部分)を歌題として詠まれた和歌を記した懐紙として、花園院の供養に際して行われたことが分かるものが各所に伝存するが、その新出の原懐紙 とそれらを江戸時代に模写した本を見出した。この模写本には、従来知られなかった新出の内容が含まれており、原懐紙と合わせてそれらについて調査報告を行った。短冊の模写本および模刻本の成立過程の考察を行った。この過程で、九条家関係の歴

代関係者、縁戚関係の諸家の筆蹟資料についての調査・研究を行った。

『風雅和歌集』の伝本に関連する論考も発表したが、これにも各写本の書承関係およびその移動に九条家との関連の有無を探っている。九州大学附属図書館蔵『風雅和歌集』は、その伝称筆者に関して、従来指摘されてこなかった重要な事実が判明したため、その考究を行い結果を報告した。また室町時代後期の姉小路基綱筆とされる『風雅和歌集』を見出したが、これも現存『風雅和歌集』の諸本の中では、九州大学附属図書館『風雅和歌集』と同時期に書写されたものと目され注意される。そして、鶴見大学図書館蔵・尊円親王筆、竟宴本『風雅和歌集』の、真名序と春上(残巻)の調査報告を行った。そしてその関連資料として江戸時代前期に古筆鑑定家により行われた、尊円筆『風雅和歌集』真名序・仮名序の模刻本を新たに発見した。そしてその報告を行い、竟宴本の清書・下書きに至る様相と『風雅和歌集』撰定の過程を明らかにした。また概論として「古筆」とその「伝称筆者」について『徒然草』88段を手がかりに考察を行ったが、九条家歴代は「伝称筆者」として、また実際の筆者として、挙げられることが極めて多く、その考究に関連する内容である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 49
2. 論文標題 市古貞次旧蔵『雨やどり』（鶴見大学図書館蔵） 解題と翻刻	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古代中世文学論考	6. 最初と最後の頁 122 - 211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 51
2. 論文標題 女子美術大学蔵『雨やどり』 解題と翻刻	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 古代中世文学論考	6. 最初と最後の頁 183 - 259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 25
2. 論文標題 十三代集とその周辺	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 書物学	6. 最初と最後の頁 35 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 1
2. 論文標題 尊円親王筆『風雅和歌集』断簡 拾遺	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 古典文学研究の対象と方法	6. 最初と最後の頁 38 - 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 58
2. 論文標題 模刻本 尊円親王筆『風雅和歌集』真名序 仮名序	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国文鶴見	6. 最初と最後の頁 108 - 116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 28
2. 論文標題 〔伏見院御集 冬〕(広沢切 模本) 影印と翻刻	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 鶴見日本文学	6. 最初と最後の頁 111 - 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 33
2. 論文標題 〔出葉口伝抄〕 翻刻と解題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 6 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 33
2. 論文標題 〔飛鳥井雅親卿歌書〕(『筆のまよひ』) 翻刻と解題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 11 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 24
2. 論文標題 【書評】武藤那賀子著『学習院本『藤袴』（榊原本僚帖）の書誌学的考察』	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 物語研究	6. 最初と最後の頁 171 - 173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 48
2. 論文標題 国立国会図書館蔵『今宵少将物語』（雨やどり）翻刻と解題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代中世文学論考	6. 最初と最後の頁 248-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 57
2. 論文標題 九州大学附属図書館蔵細川文庫本『風雅和歌集』 消えた奥書と伝称筆者	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国文鶴見	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 26
2. 論文標題 〔振古仙雅・古今吹万〕（古筆了伴模写）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鶴見日本文学	6. 最初と最後の頁 63-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 56
2. 論文標題 風雅和歌集校本と研究 補遺(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文鶴見	6. 最初と最後の頁 21 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 14
2. 論文標題 「古筆」と「伝称筆者」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ひろば	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 55
2. 論文標題 花園院七回忌「法華経要文和歌」の新資料	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文鶴見	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 54
2. 論文標題 伝二条為兼筆詠草切 京極為兼の和歌・伝記に関する新資料	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国文鶴見	6. 最初と最後の頁 pp.49- 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石澤一志	4. 巻 141
2. 論文標題 佐竹本三十六歌仙絵小考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文芸研究	6. 最初と最後の頁 pp.35- 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 石澤一志
2. 発表標題 堯孝門弟・周興律師の書写活動
3. 学会等名 和歌文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石澤一志
2. 発表標題 伝源通親筆「五首懐紙」について
3. 学会等名 中世文学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 石澤一志他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 376
3. 書名 古代中世文学論考 38集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------